



平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年8月5日

上場取引所 東

上場会社名 スターティア株式会社

コード番号 3393 URL <http://www.startia.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 最高経営責任者 (氏名) 本郷秀之

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 兼 常務執行役員 経営企画室 長 兼 財務経理部長 (氏名) 後久正明

TEL 03-5339-2162

四半期報告書提出予定日 平成23年8月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第1四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	1,027	16.7	△67	—	△68	—	△45	—
23年3月期第1四半期	881	14.5	△41	—	△44	—	△45	—

(注) 包括利益 24年3月期第1四半期 △42百万円 (—%) 23年3月期第1四半期 △45百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第1四半期	△9.27	—
23年3月期第1四半期	△2,118.94	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第1四半期	3,122	2,331	74.7
23年3月期	3,439	2,399	69.8

(参考) 自己資本 24年3月期第1四半期 2,331百万円 23年3月期 2,399百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	0.00	—	4.04	4.04

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,000	4.7	40	△66.1	40	△67.9	20	△69.2	4.04
通期	4,700	17.5	400	46.4	400	43.8	200	54.5	40.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)： 無
新規 ― 社 (社名) 、 除外 ― 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期1Q	4,953,400 株	23年3月期	4,953,400 株
24年3月期1Q	51 株	23年3月期	51 株
24年3月期1Q	4,953,349 株	23年3月期1Q	21,503 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)5ページ 1(4)連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。
・決算補足説明資料は平成23年8月9日(火)に当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報（その他）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報等	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、景気に緩やかな回復の兆しがみられたものの、東日本大震災とその後の電力供給の制約や長引く円高の影響で、雇用や個人所得が依然として厳しい状況にあり、景気の本格的な回復は不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループを取巻く事業環境といたしましては、引続き、新聞や雑誌、テレビなどで電子ブックが取り上げられるなどして注目を浴び、ハード面での環境が整いつつあり、専用サイトも、携帯電話通信事業者、大手印刷会社など業界大手がサービスを開始するなど電子ブック市場の拡大スピードは加速しており、結果として電子ブック作成ソフトの認知度やニーズが市場において急速に拡大成長してきております。

また、東日本大震災での教訓から、企業におけるIT災害対策の必要性が顕在化し、被災した場合の事業継続に向けた早期IT環境復旧への関心が高まってきております。しかしその一方では、情報通信機器各メーカーにおいて、製造工場の被災及び停電の影響で、ビジネスホンに欠品が出るなどの影響が発生しております。

このような事業環境のもと、当社グループにおいては、目先の利益だけに囚われない中長期に亘る継続的な利益基盤構築に向けて、事業ごとの収益性や成長性を分析し、将来においてどの事業に経営資源を配分するか判断し、サービス提供を通じて継続的な収入が得られるストック型ビジネスへ大きくシフトさせ、当連結会計年度においては更にその比重を強めております。

その結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高1,027,930千円(前年同四半期比16.7%増)、営業損失67,119千円(前年同四半期は営業損失41,756千円)、経常損失68,455千円(前年同四半期は経常損失44,079千円)、四半期純損失45,934千円(前年同四半期は四半期純損失45,562千円)となりました。

なお、セグメント別の業績を示すと、次の通りであります。

(ウェブソリューション関連事業)

当第1四半期連結累計期間におけるウェブソリューション関連事業は、以下の通りであります。

ウェブソリューション関連事業においては、電子ブック作成ソフト「Digit@Link ActiBook (デジタルリンクアクティブック)」（以下「ActiBook」といいます）や「Digit@Link CMS (デジタルリンクシーエムエス)」を始めとしたWebアプリケーションの企画、開発、販売に留まらず、Web制作やアクセスアップコンサルティング、システムの受託開発・カスタマイズといった顧客の売上増大や業務効率アップを目的としたWebアプリケーションに関するトータルソリューションを提供してまいりました。

特にActiBookに関して、基本機能改善やiPhone・iPad対応以外にもAndroid対応の開発を進めたことでワンオーナーリングマルチデバイス（一度の操作でPC、iPhone、iPad、Android搭載のスマートフォンに対応した電子ブックを作成することができる）を期待する印刷会社を中心に導入が進み、好調に推移いたしました。

また、セブン-イレブンに置かれている富士ゼロックス株式会社の「ネットプリント」に、ActiBookが採用されるなど、積極的な開発だけでなく展示・説明会やセミナーなどにて集客を行った結果、ActiBookの導入社数は累計にて1,160社にまで伸び、好調に推移いたしました。

その結果、ウェブソリューション関連事業の当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高207,127千円(前年同四半期比57.7%増)、セグメント損失(営業損失)2,528千円(前年同四半期はセグメント利益(営業利益)1,798千円)となりました。

(ネットワークソリューション関連事業)

当第1四半期連結累計期間におけるネットワークソリューション関連事業は、以下の通りであります。

ネットワークソリューション関連事業においては、前連結会計年度より継続強化しているマネージドサービスに更に注力し事業活動を行いました。

ネットワーク関連機器に関しましては、企業の設備投資意欲の鈍化が続くなか、ネットワーク関連のハードウェア販売が大きく減少し、ISP回線の取次において苦戦した結果となりましたが、ネットワーク機器レンタルサービス「マネージドゲート」が堅調に顧客数を伸ばしました。

ホスティングサービスに関しましては、震災等の影響もありITアウトソーシングサービスのニーズが堅調に高まる市場を受けて、柔軟なサービス提供と新規顧客開拓を強化した結果、専用サーバーサービスと、SaaS型インターネットファイルサーバー「セキュアSamba」が堅調に顧客数を伸ばし、ストック型サービス基盤が大きく成長しました。

その結果、ネットワークソリューション関連事業の当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高316,290千円(前年同四半期比12.1%増)、セグメント利益(営業利益)10,457千円(前年同四半期比94.6%増)となりました。

(ビジネスソリューション関連事業)

当第1四半期連結累計期間におけるビジネスソリューション関連事業は、以下の通りであります。

ビジネスソリューション関連事業においては、複合機の自社メンテナンスエリア内における販売強化を最優先課題とし、これまで商材別に分けてあった組織から、営業効率の強化や営業組織を販売手法別に再編いたしました。震災の影響によりメーカーからのビジネスホンの供給が不足するなどの状況もあり、エリア内の新規顧客の獲得、ビジネスホンと複合機の同時販売強化を実施すると共に、引き続き技術部門の作業の効率化を図っておりますが、販売部門については、大変苦戦し前期割れと低迷しております。

複合機販売に関しましては、カラー機販売の強化を行い、複合機に係る売上高は前年同四半期比で約1.4倍となり非常に好調に累積稼働台数を伸ばしました。

ソフトバンクテレコム株式会社が提供する電話サービスである、おとくラインの受付案内、登録作業、現地調査等の加入に必要な手続きをソフトバンクテレコムパートナーズ株式会社に代わって行う回線接続受付に関しましては、前期割れで大変苦戦いたしました。

その結果、ビジネスソリューション関連事業の当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高504,512千円(前年同四半期比7.9%増)、セグメント損失(営業損失)66,948千円(前年同四半期はセグメント損失(営業損失)42,024千円)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間末の総資産は3,122,225千円となり、前連結会計年度末と比較して316,782千円減少いたしました。その主な内容は、現金及び預金の減少248,902千円があったことなどによります。

負債の部は790,362千円となり、前連結会計年度末と比較して249,055千円減少いたしました。その主な内容は、買掛金の減少30,416千円、未払法人税等の減少101,865千円、長期借入金の減少29,200千円があったことなどによります。

純資産の部は2,331,862千円となり、前連結会計年度末と比較して67,727千円減少いたしました。その主な内容は、四半期純利益△45,934千円の計上、株主総会決議による配当金の支払24,766千円があったことなどによります。

(3) キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の当第1四半期連結累計期間末残高は1,756,186千円（前年同四半期比45.4%増）となりました。

当第1四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下の通りです。

(イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間末における営業活動によるキャッシュ・フローは100,641千円の支出となりました（前年同四半期は116,115千円の収入）。その主な内容は、税金等調整前四半期純利益△67,396千円を計上したことや、賞与引当金の減少36,815千円や未払金の減少38,405千円があったことなどによるものであります。

(ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間末における投資活動によるキャッシュ・フローは65,294千円の支出となりました（前年同四半期は83,437千円の支出）。その主な内容は、固定資産の取得による支出59,693千円があったことなどによるものであります。

(ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間末における財務活動によるキャッシュ・フローは82,966千円の支出となりました（前年同四半期は76,489千円の支出）。その主な内容は、長期借入金の返済による支出58,200千円や配当金の支払額24,766千円があったことによるものであります。

(4)連結業績予想に関する定性的情報

当社グループでは、顧客満足度の向上を最重要課題と位置づけ、新規商材やサービスの提供だけに留まらず、昨年に引続きワンビリングで提供できるソリューションなどの商材ラインナップを拡充し既存顧客の囲い込みを一層強化するとともに、創業以来最大のストック型サービス拡販の強化年度とし、年次当初より中長期に向けた更なる収益体制の強化を図ってまいります。

当第1四半期連結累計期間における業績につきましては、売上高、利益共に概ね予想通りに好調に推移しておりますので、現在のところ平成23年5月13日に発表いたしました連結業績予想に変更はございません。

なお、業績予想につきましては、現在入手可能な情報に基づき当社が判断したものであります。従いまして、本業績予想のみに全般的に依拠して投資判断を下すことは控えられますようお願いいたします。また、実際の業績は、様々な要因により本業績予想とは異なる結果となり得ることをご承知おきください。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表等

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年 3 月31日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成23年 6 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,010,103	1,761,200
受取手形及び売掛金	631,457	565,629
原材料及び貯蔵品	21,011	19,849
その他	178,210	154,967
貸倒引当金	△32,333	△37,403
流動資産合計	2,808,448	2,464,243
固定資産		
有形固定資産	97,537	111,296
無形固定資産		
のれん	73,916	63,916
その他	166,590	182,373
無形固定資産合計	240,506	246,290
投資その他の資産	277,937	287,067
固定資産合計	615,981	644,653
繰延資産	14,577	13,327
資産合計	3,439,007	3,122,225
負債の部		
流動負債		
買掛金	291,763	261,346
1年内返済予定の長期借入金	151,800	122,800
未払法人税等	104,935	3,070
賞与引当金	81,263	44,447
その他	268,255	246,498
流動負債合計	898,018	678,162
固定負債		
長期借入金	141,400	112,200
固定負債合計	141,400	112,200
負債合計	1,039,418	790,362
純資産の部		
株主資本		
資本金	777,630	777,630
資本剰余金	918,793	918,793
利益剰余金	707,691	636,775
自己株式	△14	△14
株主資本合計	2,404,100	2,333,184
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△4,511	△1,322
その他の包括利益累計額合計	△4,511	△1,322
純資産合計	2,399,589	2,331,862
負債純資産合計	3,439,007	3,122,225

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
売上高	881,049	1,027,930
売上原価	409,909	508,703
売上総利益	471,139	519,226
販売費及び一般管理費	512,896	586,345
営業損失(△)	△41,756	△67,119
営業外収益		
引継債務償却益	3,628	1,379
受取利息	51	—
その他	236	161
営業外収益合計	3,916	1,540
営業外費用		
持分法による投資損失	4,249	751
支払利息	1,989	876
株式交付費償却	—	1,249
営業外費用合計	6,238	2,877
経常損失(△)	△44,079	△68,455
特別利益		
事業譲渡益	—	3,000
特別利益合計	—	3,000
特別損失		
固定資産除却損	15	222
投資有価証券評価損	—	1,717
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	1,786	—
特別損失合計	1,801	1,940
税金等調整前四半期純損失(△)	△45,880	△67,396
法人税、住民税及び事業税	364	1,254
法人税等調整額	△682	△22,715
法人税等合計	△318	△21,461
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△45,562	△45,934
四半期純損失(△)	△45,562	△45,934

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△45,562	△45,934
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△25	3,188
その他の包括利益合計	△25	3,188
四半期包括利益	△45,587	△42,746
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△45,587	△42,746
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△45,880	△67,396
減価償却費	29,322	40,641
貸倒引当金の増減額(△は減少)	2,295	5,070
賞与引当金の増減額(△は減少)	△48,009	△36,815
受取利息及び受取配当金	△51	—
支払利息	1,989	876
持分法による投資損益(△は益)	4,249	751
投資有価証券評価損益(△は益)	—	1,717
固定資産除却損	15	222
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	1,786	—
事業譲渡益	—	△3,000
売上債権の増減額(△は増加)	155,249	68,080
たな卸資産の増減額(△は増加)	△22	1,162
仕入債務の増減額(△は減少)	△24,645	△30,416
未払金の増減額(△は減少)	△10,105	△38,405
未払消費税等の増減額(△は減少)	△1,548	△2,998
その他	97,446	63,110
小計	162,090	2,601
利息の支払額	△1,820	△185
法人税等の支払額	△44,154	△103,056
営業活動によるキャッシュ・フロー	116,115	△100,641
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△53,767	△59,693
保証金の差入による支出	△3,315	△848
保証金の回収による収入	1,379	—
投資有価証券の取得による支出	△20,000	—
事業譲渡による収入	—	3,000
その他	△7,733	△7,752
投資活動によるキャッシュ・フロー	△83,437	△65,294
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△74,866	△58,200
ストックオプションの行使による収入	2,625	—
配当金の支払額	△7,488	△24,766
自己株式の処分による収入	3,240	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△76,489	△82,966
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△43,811	△248,902
現金及び現金同等物の期首残高	1,211,757	2,005,089
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,167,946	1,756,186

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1、2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ウェブソリューション 関連事業	ネットワーク ソリューション 関連事業	ビジネスソリューション 関連事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	131,323	282,139	467,586	881,049	—	881,049
セグメント間の内部売上高 又は振替高	303	22,902	70,381	93,587	△93,587	—
計	131,626	305,041	537,968	974,636	△93,587	881,049
セグメント利益 又は損失(△)	1,798	5,373	△42,024	△34,852	△6,904	△41,756

(注) 1 セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額は、セグメント間取引消去93,587千円であります。

2 セグメント利益の調整額△6,904千円は、セグメント間取引消去479千円、各報告セグメントに分配していない全社費用△7,383千円であります。

3 セグメント損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1、2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ウェブソリューション 関連事業	ネットワーク ソリューション 関連事業	ビジネスソリューション 関連事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	207,127	316,290	504,512	1,027,930	—	1,027,930
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	82,783	93,210	175,993	△175,993	—
計	207,127	399,073	597,723	1,203,924	△175,993	1,027,930
セグメント利益 又は損失(△)	△2,528	10,457	△66,948	△59,018	△8,100	△67,119

(注) 1 セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額は、セグメント間取引消去175,993千円であります。

2 セグメント利益の調整額△8,100千円は、各報告セグメントに分配していない全社費用△8,100千円であります。

3 セグメント損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

該当事項はありません。